

小児科（小児科、新生児科）

診療科の特色

小児科は新生児期から小児期における内分泌疾患、代謝疾患、呼吸器アレルギー疾患、神経疾患、腎疾患、血液腫瘍疾患、循環器疾患、リウマチ性疾患といった大変広範囲にわたる疾患を発達というダイナミックな軸で扱う大変魅力的な診療科です。次世代を担う子どもの命を助けることができるという大変にやりがいのある科ですが、その分だけ多少忙しいという面もあります。バランスのとれた小児科研修のためにはこの広範囲にわたる各領域別のすぐれた専門医が同施設内で指導医として配置されることが必要ですが、小児科医不足によりなかなか達成できないことがわが国での小児科研修の問題点の一つでした。埼玉医科大学病院小児科では、6人の教授が診療研修医指導に直接あたっているため他研修施設にはありえない高レベルでバランスの良い研修ができることが特徴のひとつです。初期研修は主に一般的な小児科研修を目指します。

診療スタッフ（役職、主な専門領域）

- 徳山 研一（教授・小児科診療部長・運営責任者、アレルギー）
- 國方 徹也（教授・新生児科診療部長、新生児）
- 秋岡 祐子（教授・小児科診療副部長、腎臓）
- 大竹 明（教授・研究主任、先天代謝・遺伝）
- 山内 秀雄（教授・教育主任、神経）
- 菊池 透（教授・研修担当医長、内分泌）
- 板澤 寿子（准教授・アレルギー）
- 本多 正和（講師、新生児科病棟医長、新生児）
- 植田 穰（講師、研修担当副医長、小児科外来副医長、呼吸器）
- 盛田 英司（講師、医療安全対策室副室長、アレルギー）
- 石井 佐織（助教・小児科外来医長、血液）
- 古賀 健史（助教、小児科病棟医長、アレルギー）
- 筧 寛子（助教、新生児科病棟副医長、新生児）
- 荒尾 正人（助教、小児科病棟副医長、腎臓）
- 武者 育麻（助教、小児科病棟副医長、内分泌）

研修方略

- 小児科病棟ではチーム制を導入しており、小児科学会認定専門医、小児科専門後期研修医、初期研修医からなるスモールグループが複数集まってラージチームを構成します。研修指導医であるチームリーダーが主治医となりますが、実際には研修医が患者を担当します。担当患者のみならずチーム内の患者も把握することで幅広い疾患を経験することが可能となります。毎朝8時からの病棟カンファランスでは、病棟担当医だけでなく教授も参加の上で、新入院患者、問題患者のディスカッションをおこなっています。その他火曜日午前と木曜日午後に教授回診、月曜日の午後5時から症例検討会と研修医向けの教育的ミニレクチャーを適宜実施しています。受け持った患者についてはサマリーを作成し、上級医の確認と指導医による承認をおこなっています。
- 外来診療については、時間外診療が中心となりますが、ここでも上級医の指導の下で診療をおこなっています。
- 新生児科研修は8週連続以上の小児科研修選択の場合に研修期間の後半で原則2週間の選択希望が可能で、分娩時の対応や診察など基本的な新生児の扱い方を学ぶこととなります（4週研修の場合は小児科研修のみで新生児科の選択は認めません。）。

研修スケジュール

小児科及び新生児・未熟児科を含む周産期・成育医療専門医自由選択プログラムの1例を示します。初期研修修了後小児科を専門にしたいと考えている場合に、この選択プログラムでは研修2年次に小児科、新生児・未熟児科の選択期間を最長48週まで延長することが可能ですので、初期研修の段階からより小児科に特化した研修をすることができます。もちろん多くの研修医の先生方が選択されるその他の研修プログラムにおける4-8週の小児科研修であっても、小児の診察や小児に対する考え方を十分に習得できるように指導します。

年次	1～4 週	5～8 週	9～12 週	13～16 週	17～20 週	21～24 週	25～28 週	29～32 週	33～36 週	37～40 週	41～44 週	45～48 週	49～52 週	
1年次	導入研修 (4W)	内科必修研修 (24W)							救急必修研修 (12W)			外 科 (4W)	精神科 (4W)	周産期・ 成育研修 (4W)
2年次	地域医療 (4W)	周産期・成育医療研修 (48W)												

(プログラムの一例)

週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
7時30分		[神経カン(本部棟5階)]		[アレルギーカン(本5階)]		
8時	学習室(南4):朝カンファ		学習室:朝カンファ	学習室:朝カンファ	学習室:朝カンファ	学習室:朝カンファ
8時30分	処置室(南4):採血	処置室:採血	処置室:採血	処置室:採血	処置室:採血	処置室:採血
9時	カルテ診⇒チーム回診	カンファ室:画像カンファ,小児外科合同カンファ	カルテ診⇒チーム回診	カルテ診⇒チーム回診	カルテ診⇒チーム回診	カルテ診⇒チーム回診
9時30分						
	病棟業務	教授回診(NICU,小児科)	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務 午後:カルテ診⇒チーム回診
		病棟業務(12:30-本部棟5階小児科医局にてランチョン)				
16時	カルテ診⇒チーム回診	カルテ診⇒チーム回診	カルテ診⇒チーム回診	教授回診(小児科)	カルテ診⇒チーム回診	
17時	カンファ室(南3):医局会	第3週遺伝カンファ(南3階)				
17時30分						
18時		[腎カンファ(本5階)]		[内分泌カンファ(南3階)]		

一般目標または一般学習目標

- ・小児に対する診察・診療に慣れる。
- ・小児期特有の疾患、発達を理解する。

行動目標（当科では主にEPOCを用いた行動・経験目標の自己評価と指導医による評価をおこなっている）

a=十分できる、b=できる、c=要努力、?=評価不能

自己 / 指導医

- | | | | |
|-----------------------------------|---|---|---|
| 1. 小児科及び院内のルールを守って行動できる。 | (| / |) |
| 2. 年齢・病状に応じた病歴をとることができる。 | (| / |) |
| 3. 小児に対して正しい診察手技で、系統的診察を行うことができる。 | (| / |) |
| 4. 小児に対して正しい治療手技で、治療を行うことができる。 | (| / |) |
| 5. 小児特有の検査成績を評価できる。 | (| / |) |
| 6. 体重あたりの薬用量の計算ができる。 | (| / |) |

学習/経験目標 (自己/指導医)

処置 (a=経験した、b=見学した、c=要努力)

☐ 身体診察	(/)
☐ 注射 (静脈)	(/)
☐ 注射 (筋肉)	(/)
☐ 注射 (皮下)	(/)
☐ 注射 (皮内)	(/)
☐ 採血 (毛細管血)	(/)
☐ 採血 (静脈血)	(/)
☐ 採血 (動脈血)	(/)
☐ 血管確保 (静脈点滴)	(/)
☐ 導尿	(/)
☐ 浣腸	(/)
☐ 胃洗浄	(/)
☐ 腰椎穿刺	(/)
☐ 骨髄穿刺	(/)
☐ 輸血	(/)
☐ 吸入療法	(/)
☐ <細菌培養検体採取>	
☐ □血液	(/)
☐ □鼻咽頭	(/)
☐ □咽頭	(/)
☐ □喀痰	(/)
☐ □尿	(/)
☐ □便	(/)
☐ 迅速ウイルス検査	(/)
☐ 内分泌負荷試験	(/)
☐ 食物負荷試験	(/)
☐ 心肺蘇生	(/)
☐ <新生児科研修>	
☐ 分娩立ち会い	(/)
☐ APGAR スコア	(/)
☐ 新生児診察	(/)
☐ 新生児採血	(/)

臨床検査 (a=結果の評価ができる、b=要努力)

☐ 尿一般検査	(/)
☐ 便一般検査	(/)
☐ 末梢血一般検査	(/)
☐ 白血球分画	(/)
☐ 一般生化学	(/)
☐ 免疫学的検査	(/)
☐ アレルゲン検索	(/)
☐ 血液型・交差検査	(/)
☐ 出血・凝固時間	(/)
☐ 血液ガス分析	(/)
☐ 髄液一般検査	(/)
☐ <細菌培養>	
☐ □血液	(/)
☐ □鼻咽頭	(/)
☐ □咽頭	(/)
☐ □喀痰	(/)
☐ □尿	(/)
☐ □便	(/)
☐ 内分泌学的負荷試験	(/)
☐ 脳波	(/)
☐ 薬物血中濃度	(/)
☐ 染色体検査	(/)

研修評価法

研修終了時に研修担当指導医による評価を受けます。研修評価はあくまでEPOCでおこないますが、各行動目標の達成度につき、本人および評価者と確認します。

当科連絡先

菊池 透 (教授、研修担当医長)

電話・FAX: 049-276-1218、1219 (小児科医局)

電子メール: tkikuchi@saitama-med.ac.jp